【無痛分娩説明書】

患者氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　患者ID：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

説明日：20＿＿＿年＿＿＿＿月＿＿＿＿日

1. この説明書について

この説明書は，当院で行う無痛分娩（硬膜外鎮痛）について，方法，期待される効果，限界，副作用，合併症，実施できない場合，他の選択肢などを説明し，十分に理解していただいたうえで，ご自身の意思で選択していただくためのものです。

お産に対して不安を感じる方は少なくありません。無痛分娩は，分娩の痛みをやわらげる有効な方法ですが，痛みが必ず完全になくなるわけではありません。

当院では，痛みをゼロにすることではなく，安心して出産できる状態を目指します。

また，母体や胎児の状態，分娩の進み方によっては，予定どおり実施できない場合や，途中で方針変更が必要になる場合があります。わからない点や不安な点があれば，遠慮なくご質問ください。

2. 無痛分娩とは

無痛分娩とは，主に硬膜外麻酔を用いて，陣痛や分娩時の痛みを軽くする方法です。背中から細い針を用いて，脊椎の近くにある硬膜外腔という場所に細い管（カテーテル）を入れ，その管から局所麻酔薬および医療用麻薬を投与することで，痛みをやわらげます。

当院では，お腹の張りはある程度感じながら，痛みは我慢できるレベルまでやわらげることを目標としています。使用する薬剤による赤ちゃんへの直接的な影響は一般に少ないとされています。ただし，母体の血圧低下や分娩経過の変化などにより，胎児心拍に変化がみられる場合があり，必要に応じて対応します。

3. 当院での無痛分娩の対象と実施体制

無痛分娩を希望される方には，原則として妊娠36週までに無痛分娩教室または外来で説明を行います。教室に参加できない場合には，妊娠36週頃の診察時に医師より説明を行います。

安全に無痛分娩を行うため，妊娠35～36週に採血を行い，血小板数など出血に関係する項目を確認します。

当院での麻酔管理は産婦人科医が担当します。休日・夜間を含めて無痛分娩に対応できる体制を整えています。ただし，母体・胎児の状態，分娩進行，院内の緊急対応状況，人員体制などにより，安全を優先して開始時期を調整する場合や，実施できない場合があります。

4. 当院の安全管理体制

当院では，無痛分娩を安全に行うため，担当医の経験，スタッフ教育，医療機器設備，シミュレーション体制を整えています。担当医は日本専門医機構産婦人科専門医であり，麻酔科研修歴，脊椎麻酔・硬膜外麻酔経験，無痛分娩経験を有しています。

また，無痛分娩研修修了スタッフがおり，NCPR（新生児蘇生）およびJCIMELS（母体救急）を受講しています。母体モニター，蘇生設備，AED，緊急対応薬剤を備え，定期的に新生児蘇生，母体救急対応，危機対応トレーニングを行っています。

緊急時には，必要に応じて富士市立中央病院や順天堂静岡病院と連携して対応します。

作成日：2026年4月01日
最終改訂日：2026年7月11日
Ver.2.0

5. 当院での無痛分娩の流れ

入院の時期は，妊娠週数，初産婦か経産婦か，子宮口の状態，陣痛の有無，母児の状態などを総合して決定します。入院後は，血圧，脈拍，体温，胎児心拍などを確認し，点滴を行います。必要に応じて陣痛促進や頸管熟化処置を行う場合があります。

無痛分娩を開始する際には，無菌的に背中から穿刺し，硬膜外腔に細いカテーテルを挿入します。麻酔開始後は，痛みの程度，血圧，しびれの範囲，胎児心拍などを継続的に確認しながら，薬の量を調整します。

分娩後は，麻酔の効きが弱まるまで経過をみて，足の動きを確認したうえで歩行を再開します。

6. 麻酔が効くまでの時間と効果の確認

無痛分娩の麻酔は，初回投与後10〜20分程度で効果が出始め，20〜30分程度で安定した鎮痛が得られることが多いですが，効き方には個人差があります。

お腹の張りは感じるが痛みは軽く，足の動きはある程度保たれる状態を目標とします。

当院ではPCEA（自己調節硬膜外鎮痛）を用いており，痛みが出てきた時にボタンで追加投与を行うことができます。過量投与が起こりにくいよう，投与量や投与間隔に安全設定を設けています。

7. 無痛分娩で期待できること

無痛分娩の最大の目的は，分娩の痛みを軽減することです。多くの方で陣痛のつらさが軽くなり，落ち着いて赤ちゃんを迎えやすくなります。

また，体力の消耗が抑えられるため，出産後の回復が早くなることがあります。

8. 無痛分娩の限界と，麻酔が効きにくいことがある場合

無痛分娩は有効な方法ですが，痛みを完全にゼロにするものではありません。分娩後半には，腰からお尻にかけての痛み，肛門部の圧迫感，いきみ感が残ることがあります。

また，麻酔の広がり方には個人差があり，片側だけ効きにくいことがあります。分娩が急速に進むと麻酔が追いつかないこともあります。こうした場合には，体位調整，PCEA，追加麻酔，必要に応じてカテーテル調整などで対応します。

9. 無痛分娩中に患者さんにお願いしたいこと

無痛分娩を安全に行うためには，患者さんご自身の協力も大切です。以下の点をご理解ください。

1）痛みが強いときは早めにお知らせください。
効き方には個人差があり，片側だけ痛い，腰からお尻にかけて痛い，急に痛みが強くなったなどの場合には，体位調整，PCEA，追加麻酔，必要時のカテーテル調整などで対応します。

2）足のしびれや力の入りにくさがあるときは，自己判断で立ち上がらないでください。
麻酔の影響で足がしびれたり，力が入りにくくなったりすることがあります。転倒防止のため，歩行やトイレ移動は必ず医療者の指示に従ってください。

3）尿意がわかりにくくなることがあります。
必要時には導尿を行います。

4）次のような症状がある場合は，すぐにお知らせください。
強い息苦しさ，急な眠気，耳鳴り，口のまわりのしびれ，動悸，強い頭痛，急な吐き気，気分不快などがある場合には，すぐに医療者へお知らせください。

5）分娩後もしばらくは安全確認が必要です。
分娩後は，足の動き，しびれ，血圧，排尿の状態などを確認し，安全を確認したうえで歩行を再開します。

作成日：2026年4月01日
最終改訂日：2026年7月11日
Ver.2.0

10. 途中から無痛分娩へ変更できる場合

最初は自然分娩で頑張ってみたいと考える方でも，痛みがつらい場合には，途中から無痛分娩へ変更できる場合があります。

ただし，母体・胎児の状態や分娩の進行状況によっては，対応できない場合があります。

11. 無痛分娩ができない場合

安全に無痛分娩を行うため，状況によっては実施できない場合があります。血小板がかなり少ない場合，血液が固まりにくい病気，抗凝固薬使用中，背中の感染，全身の重い感染症，高熱，背骨の手術歴，神経の病気などでは実施できないことがあります。

当院では，院内基準として，血小板数が8万/μL未満の場合，抗凝固薬使用中の場合，児頭骨盤不均衡（CPD）が疑われる場合は，原則として無痛分娩を行いません。

12. よくみられる症状・副作用

無痛分娩では，比較的よくみられるものとして，足のしびれ，尿意低下，かゆみ，発熱，血圧低下などがあります。必要に応じて，介助や導尿を行います。

また，無痛分娩では，持続的モニタリング，点滴やカテーテル管理が必要となり，場合によっては陣痛促進剤を使用することがあります。

13. まれに起こる合併症

まれな合併症として，局所麻酔薬中毒，硬膜穿刺後頭痛，硬膜外血腫，感染，硬膜外膿瘍，髄膜炎，くも膜下腔への誤注入，神経障害，薬剤アレルギー，呼吸抑制，呼吸停止・心停止などがあります。

硬膜穿刺後頭痛は約0.5〜1%，一時的なしびれなどの神経障害はまれであり，呼吸停止・心停止などの重篤な麻酔合併症は非常にまれとされています。

14. 分娩経過への影響

無痛分娩により，いきむ力が弱くなることや，分娩第2期がやや延長することがあります。一般に，第1期は大きな延長はなく，第2期は約15〜30分延長するとされています。赤ちゃんやお母さんへの大きな悪影響は示されていません。一方で，器械分娩が増えることがあること，持続的モニタリングや点滴などの医療介入が増えることがあります。

15. 予定どおりに無痛分娩ができない場合，または途中で中止する場合

以下の場合には，希望されていても無痛分娩を開始しない，または開始後に中止することがあります。

胎児機能不全が疑われる場合，大量出血がある場合，感染が疑われる場合，分娩が急速に進行し安全に麻酔を行う時間がない場合，効果不十分で安全な継続が難しい場合，緊急帝王切開や急速遂娩が必要になった場合，医師が母児の安全のため方針変更が必要と判断した場合です。

この場合は，自然分娩継続，器械分娩，帝王切開など，その時点で最も安全と判断する方法に変更します。

16. 緊急時の対応

無痛分娩中は，母体と胎児の状態を継続的に観察します。異常が認められた場合には，母児の安全を最優先として，酸素投与，体位変換，点滴追加，昇圧薬などの薬剤投与，導尿，麻酔方法の変更，吸引分娩，鉗子分娩，帝王切開など，必要な救急処置を行います。当院では輸血製剤を常備していないため，大量出血などにより輸血や高次医療が必要と判断される場合には，初期対応を行いながら，速やかに連携医療機関へ搬送します。必要時には高次医療機関と連携して対応します。

作成日：2026年4月01日
最終改訂日：2026年7月11日
Ver.2.0

17. 無痛分娩以外の選択肢

無痛分娩を希望されない場合，または実施できない場合には，自然経過での分娩，呼吸法や体位調整などによる痛みの緩和，必要時の他の医療的対応，帝王切開などの選択肢があります。

無痛分娩はあくまで選択肢の一つであり，これを選ばないことも可能です。

18. 費用

当院の無痛分娩費用は以下のとおりです。

初産婦　12万円

経産婦　10万円

分娩進行後に無痛分娩へ切り替える場合　15万円

必要に応じて，以下の追加費用が発生する場合があります。

時間外分娩　＋1万円

頸管拡張　＋1.5万円

無痛管理が2日以上に及ぶ場合　＋1万円

※上記費用は改定される場合があります。

※分娩経過や処置内容により，別途費用が発生する場合があります。

19. 最後に確認していただきたいこと

無痛分娩は，分娩の痛みをやわらげる有効な方法ですが，痛みが完全になくなることを保証するものではありません。

効果には個人差があり，分娩後半には痛みや圧迫感が残ることがあります。

副作用や合併症が起こることがあり，まれに重い合併症の可能性もあります。

また，母児の安全のため，予定変更や追加処置が必要になることがあります。

以上をご理解いただいたうえで，無痛分娩を希望されるかどうかをご判断ください。わからないことがあれば，同意前でも同意後でもご質問ください。

【説明確認欄】

私は，本説明書の内容について医師より十分な説明を受け，理解しました。

説明日：20_____年_____月_____日

患者氏名：_____（自署）

生年月日：_____年_____月_____日

【医師記載欄】

上記について十分に説明を行いました。

説明医師名：_____（自署）

作成日：2026年4月01日

最終改訂日：2026年7月11日

Ver.2.0

【無痛分娩同意書】

本同意書は，別紙「無痛分娩説明書」に基づくものです。

富士バースクリニック
院長　矢田大輔　殿

私は，医師より無痛分娩（硬膜外鎮痛）について十分な説明を受け，その内容を理解したうえで，自己の自由意思に基づき，無痛分娩を受けることに同意します。

1. 同意の対象

私は，分娩時の疼痛緩和を目的に行われる無痛分娩（主として硬膜外鎮痛）について説明を受けました。

2. 説明内容の理解

私は，医師より以下の事項について説明を受け，内容を理解しました。

・無痛分娩の目的，方法，流れ
・期待される効果と限界
・麻酔が効くまでの時間，効き方に個人差があること
・無痛分娩中に患者自身の協力が必要であること
・実施できない場合，途中開始できる場合，予定どおり実施できない場合や中止となる場合があること
・よくみられる症状・副作用
・まれではあるが重い合併症が起こりうること
・分娩経過への影響，緊急時の救急処置
・無痛分娩以外の選択肢，費用

また，上記について質問する機会があり，その説明内容に納得しました。

3. 無痛分娩の限界についての理解

私は，無痛分娩が有効な方法である一方，痛みが完全になくなることを保証するものではなく，分娩後半に痛みや圧迫感が残ることや，麻酔の効き方に個人差があることを理解しました。

4. 方針変更・中止に関する理解

私は，母体・胎児の状態，分娩進行，麻酔の効果や安全性などにより，予定どおり開始できない場合や開始後に中止となる場合があり，その際は自然分娩継続，器械分娩，帝王切開など最も安全と判断する方法に変更されることを理解しました。

5. 無痛分娩中の安全確保のために必要となる対応について

私は，無痛分娩の実施中または実施後に，母児の安全確保のため，体位変換，酸素投与，点滴追加，昇圧薬その他必要な薬剤投与，導尿，麻酔方法の調整，追加麻酔，カテーテル調整，持続的モニタリング，中止などが行われる場合があることについて説明を受け，理解しました。

また，分娩経過により吸引分娩，鉗子分娩，帝王切開，高次医療機関への搬送・連携対応が必要となる場合があることを理解しました。これらについては，緊急性が許す限り，その時点で必要な説明を受けるものと

作成日：2026年4月01日
最終改訂日：2026年4月01日
Ver.1.0

します。ただし，母児の生命・身体に差し迫った危険があり，事前に十分な説明・同意を得る時間的余裕がない場合には，救命および安全確保を優先した処置が行われる場合があることを理解しました。

6. 副作用・合併症についての理解

私は，無痛分娩に伴い，足のしびれ，尿意低下，かゆみ，発熱，血圧低下などの比較的よくみられる症状・副作用が起こりうることを理解しました。

また，局所麻酔薬中毒，硬膜穿刺後頭痛，硬膜外血腫，感染，神経障害，くも膜下腔への誤注入，呼吸停止・心停止などの重い合併症はまれであるものの，ゼロではないことについて説明を受け，理解しました。

7. 自由意思による同意

私は，本同意が強制によるものではなく，自らの意思に基づいて行うものであることを確認します。

8. 同意の撤回

私は，本同意について，無痛分娩開始前であれば，いつでも撤回できることについて説明を受けました。

また，開始後であっても，中止や減量を希望する場合には医療者へ申し出ることができます。ただし，すでに行われた処置を元に戻すことはできず，母児の安全確保のため，医学的に安全な方法で中止・変更が検討されることを理解しました。

9. 個人情報および診療情報の取扱い

私は，無痛分娩に関連する診療情報が，法令および院内規程に基づき適切に管理・利用されることを理解しました。

同意の確認

□ 上記内容について説明を受け，理解し，同意します

患者氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（自署）　　署名日：20＿＿＿年＿＿＿＿月＿＿＿＿日

生年月日：西暦＿＿＿＿年＿＿＿＿月＿＿＿＿日　　電話番号：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

住所：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

説明同席者氏名（任意）：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（自署）署名日：20＿＿＿年＿＿＿＿月＿＿＿＿日

※保護者署名欄は，未成年等の場合に院内運用上記載を求めるものです。

保護者氏名（未成年等の場合）：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（自署）　　続柄：＿＿＿＿＿＿＿＿

署名日：20＿＿＿年＿＿＿＿月＿＿＿＿日

作成日：2026年4月01日
最終改訂日：2026年4月01日
Ver.1.0